毎年300万人を超える
初詣客が訪れる成田山新勝寺。
新年を迎えるための準備が
秋から年末にかけて行われました。
9月の御護摩札の浄書に始まり、
大しめ縄作り、すす払い、
飾り付けへと行事が
進められ、境内には
新年を迎える厳かな
気配が広がって
いきました。

9/12 御護摩札の浄書

新しい年の願い事が込められる御護摩札。正月に向けて、僧侶がモミの木の札に不動明王を表す梵字（ぼんじ）などを書き入れる浄書が始まりました。丁寧にしたためられ、年末までに約60万体が準備されました。

12/1 大しめ縄作り

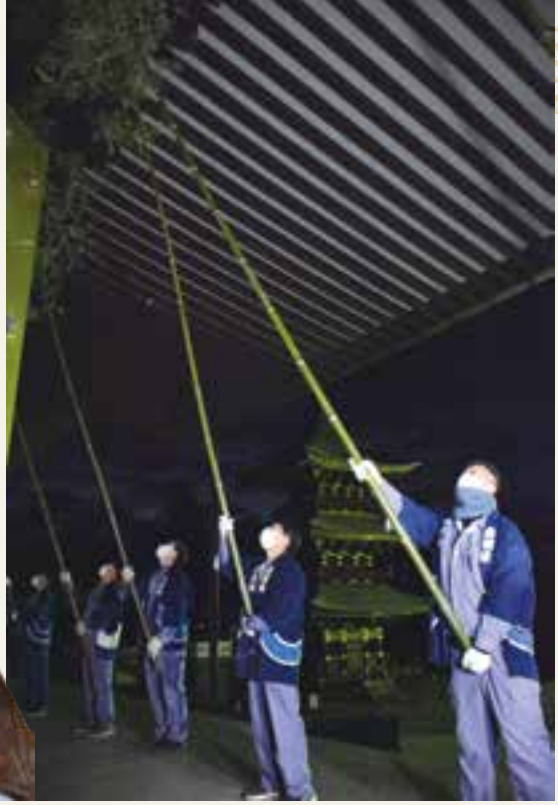
成田山の大しめ縄は「照範（しょうはん）じめ」と呼ばれ、稲穂をつるしたような形が特徴。約6,000束のわらから選び抜いた2,500束を使って、長さ6.6メートル、重さ200キログラムを超える大しめ縄が作られました。

成田山新勝寺の正月支度

参詣客の笑顔を願って

12/13 すす払い

1年の汚れやほこりを落とす「すす払い」。日の出前の午前5時から、僧侶がはけで仏像などを清め、成田山職員が長さ約8メートルのササ竹で天井などにたまった汚れを落としました。



12/25 大しめ縄飾り付け

職人たちの手で仕上げられた大しめ縄が大本堂前へ。クレーンで高さ6メートルまでつり上げられ、慎重に取り付けられました。最後に松と竹が添えられると、新年を迎える大しめ縄が完成しました。

12/28 納め札お焚き上げ 柴灯大護摩供

お不動様の加護が込められたお札をたき上げて、一年の御利益に感謝する「納め札お焚き上げ柴灯大護摩供（さいとうおおごまく）」。山伏姿の僧侶約20人が、納められた約3万体の古いお札を燃え盛る炎の中に投げ入れました。